

## 社会保障こぼれ話

### ILOの「社会保障部」について

以下はジュネーブ在住の樋口富男氏が私の質問に対し答えてくれた私信によるものである。

ILO機構のうちで社会保障部 Social Security Section という名称が用いられたのは、1949年の総会に提出された予算書のなかに見られ、それまでは社会保険部 Social Insurance Section といわれていた。しかしその前の1948年に、Correspondence Committee on Social Insurance がその名称を Correspondence Committee on Social Security に変え、さらに同じ年に Commit-

tee of Social Security Experts に変えたことがわかっている。この委員会が同年12月にILO理事会に提出した報告の一つに、Programme of Work of the Social Security of the ILO というのがある。これはその3月に理事会でとりあげられた時は Social Insurance Section となっていたのであり、変更の理由は報告書には明記されていないが、1948年代にすでに非公式に、すなわち予算報告書における名称と別に、「社会保障部」という名称が内部では確立されていたように思われる。

ILOを含めて国際機関で社会保障 Social Security という言葉が使われたのは、もっと以前に遡る。それには次のものがある。(1)1940年12月、リマにて Inter-American Committee for the Advancement of Social Security 設立 (2)1941年11月、ニューヨークにてILO総会が Social Security に言及した決議を採択 (3)1942年9月、上記(1)の Inter-American Committee が Inter-American Conference on So-

cial Security と改組 (5)1943年12月の第91回ILO理事会で、Social Security にかんする問題を1944年のILOの総会の議題とすることに決定 (6)1944年5月の第26回ILO総会で、勧告67号(所得保障)および69号(医療)を採択 (7)1947年10月、International Social Insurance Conference が International Social Security Association (I. S. S. A.) となる。

■樋口氏の手紙にはないが、The ILO and Social Security, 1961というパンフレットによると、1936年に、Conference of American States Members of the ILO が、チリで開かれた時、「社会保障」という言葉が用いられたとある。また1944年の International Labour Conference のいわゆる Declaration of Philadelphia のなかにもこの言葉が用いられ、それが上記(6)の勧告採択を導いたのである。

(山田雄三 社会保障研究所)